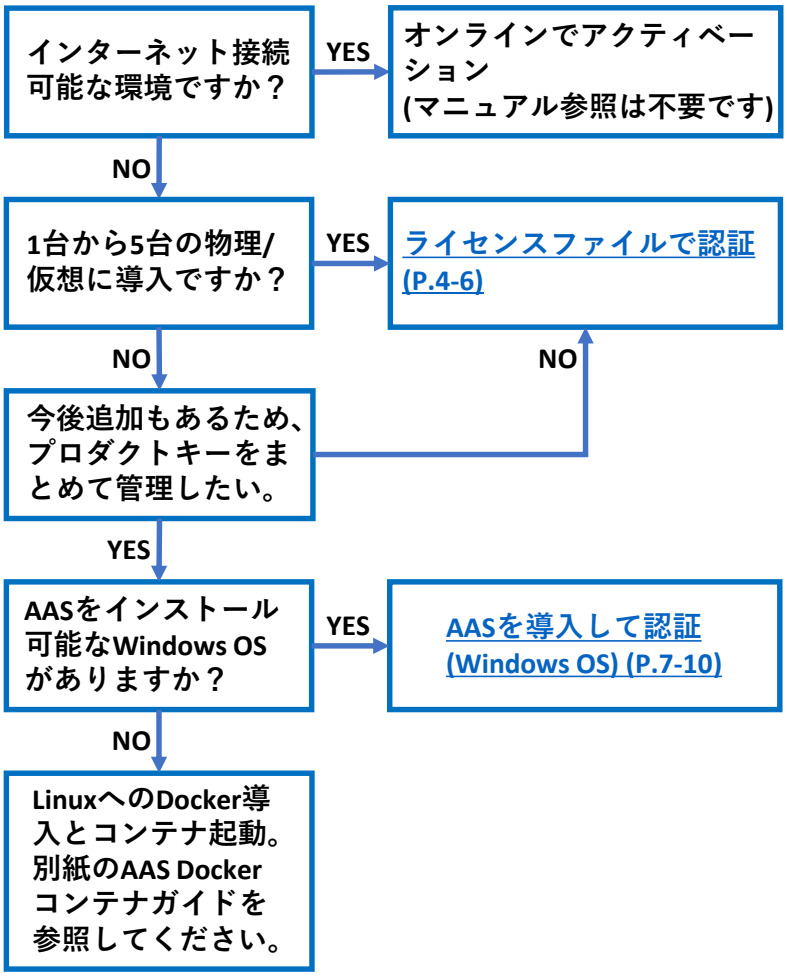
製品アクティベーションガイド

ActiveImage™ 2022 PROTECTOR Server

本ガイドの効率的な使用方法

本ガイドでは、オフライン（インターネット接続できない環境）でのActiveImage Protector 2022 Server導入に必要な、製品のアクティベーション方法について解説しています。
すべての内容を確認しても問題はありませんが、必要な部分だけを参照することで効率的に理解可能です。

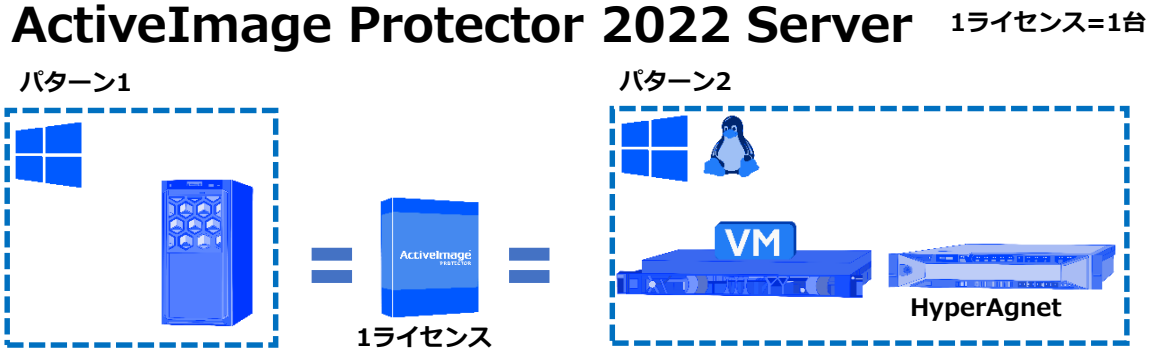
導入環境別フロー　（該当するページを参照してください)



※ActiveImage Protector 2022 Serverでは、エージェントレスバックアップをおこなうこともできます。

はじめに

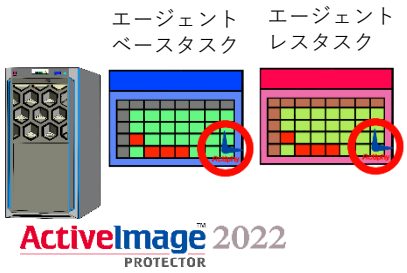
本ガイドはActiveImage Protector2022シリーズ導入時に必要となる、製品アクティベーションについて記述しています。所持しているActiveImage Protector 2022シリーズに対応した、各ガイドを参照してください。またオンライン環境の場合には、基本的には自動的にインターネットを経由して製品のアクティベーションがおこなわれるため、アクティベーションのための作業は特に必要ありません。



1ライセンスで、Windows Server OSを物理、仮想問わず１台バックアップ運用が出来ます。また仮想環境のバックアップの場合には、HyperAgentを使用する事でエージェントレスバックアップ方式も利用できます。

アクティベーションのタイミング

タスクを作成したタイミングで、ライセンスを消費します。1ライセンスの場合、エージェントベース版もしくはエージェントレス版の使用でアクティベーションされ、同時に2種類の方式は利用できません。一度作成したタスクを削除すれば、異なる方式のタスクを作成することが可能です。
１ライセンスで、１台のバックアップを１種類の方式でおこなうことができます。



アクティベーション方法

インターネット接続可能環境（オンライン環境）

特にアクティベーションの作業は不要です。自動的にインストール後のタスク作成時にアクティベーションされます。

クローズドのネットワーク環境（オフライン環境）

ライセンスファイル方式(少数台の購入向け)

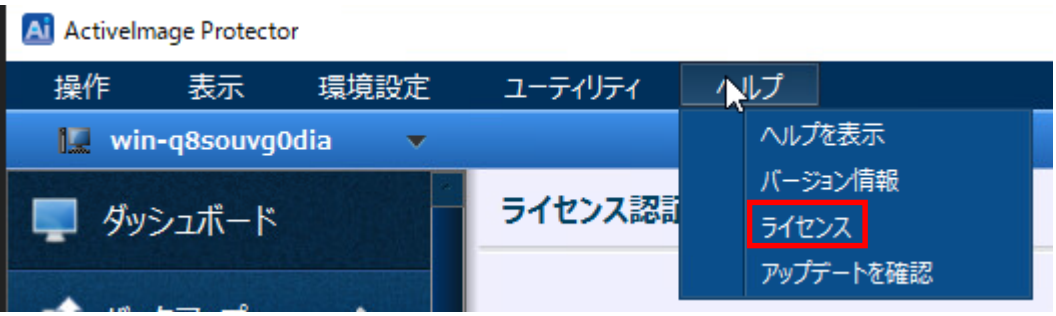
プロダクトキーを使用してライセンスファイルの入手をおこないます。１台につき１ファイルでアクティベーションします。複数台の場合には、所有ライセンス数分のライセンスファイルを使用します。

AAS方式(Actiphy Authentication Service)複数台の導入向け

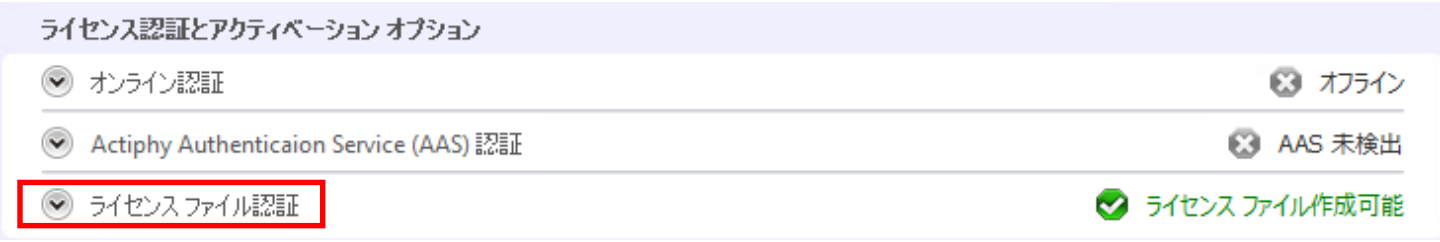
プロダクトキーをバンドルファイル化します。入手したバンドルファイルをAASへ登録することにより、AASを導入したマシンと、ActiveImage Protectorを使用するマシンをネットワーク接続してアクティベーションをおこないます。

※ライセンスファイル方式またはAAS方式のどちらか片方を選択してアクティベーションをおこないます。

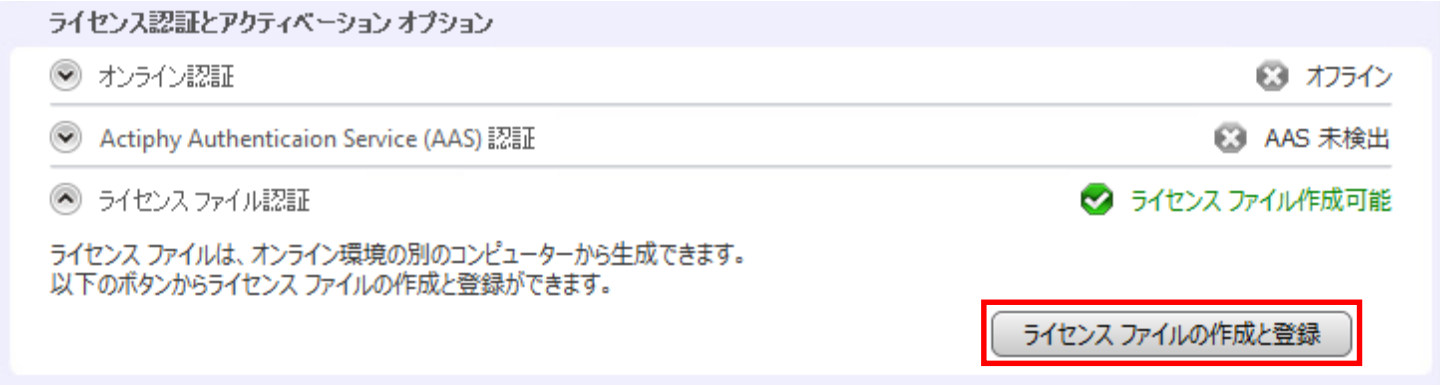
ライセンスファイルによるアクティベーション



ActiveImage Protectorをインストール後 [ヘルプ] – [ライセンス] をクリックすると、下図のようにライセンス認証の画面が表示されます。



ライセンスファイルを使用してアクティベーションをおこなう場合、上図の [ライセンス ファイル認証] をクリックします。



上図の[ライセンス ファイルの作成と登録] をクリックします。

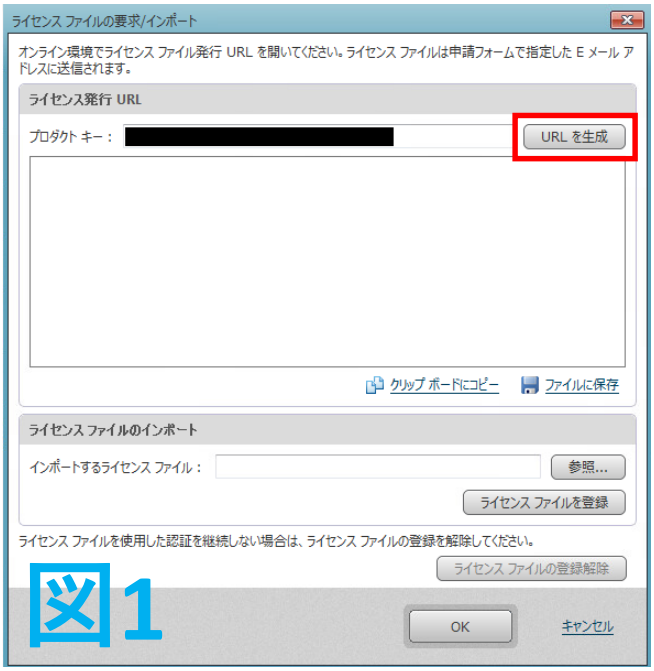


図1

製品のプロダクトキーが表示されているため、図1の赤枠内 [URLを生成] をクリックします。
すると図2のように、黒い部分にURLが表示されます。
[ファイルに保存] をクリックすると、任意の場所にURLをテキストファイルで保存できます。そのファイルをインターネット接続しているマシンにコピーして、ブラウザからURLに接続してください。

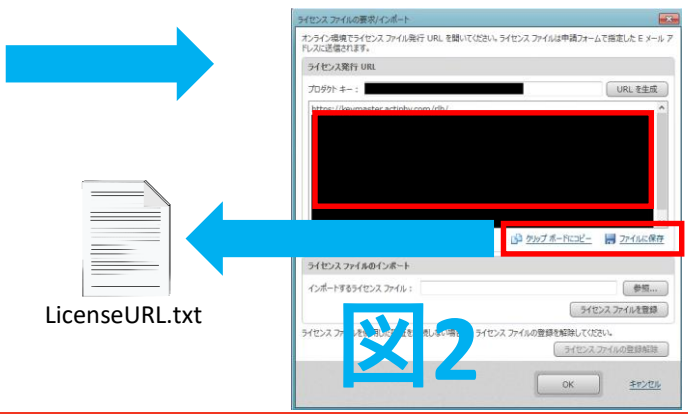


図2

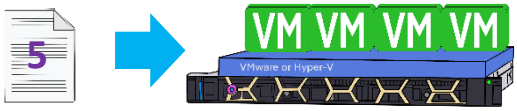
URLに接続すると [ライセンスファイル申請フォーム] のサイトに移動します。

ライセンスファイルの受け取りに使用するメールアドレスを入力し、[検証！]をクリックしてください。

インストール時に使用されたActiveImage Protectorのプロダクトキー情報は、自動で取得されています。右図の赤枠内に、そのプロダクトキーのライセンス数が表示されます。1ライセンスのプロダクトキーの場合には、赤枠内に1と入力して作成します。
複数ライセンスを所持している場合には、使用目的別に作成方法が異なります。
例えば5ライセンスのプロダクトキーでは、5台の物理マシンのバックアップで使用する場合と、仮想マシンのエージェントレスバックアップで使用する場合で、作成方法を使い分ける必要があります。

5ライセンスを１つのライセンスファイルにした場合の用途

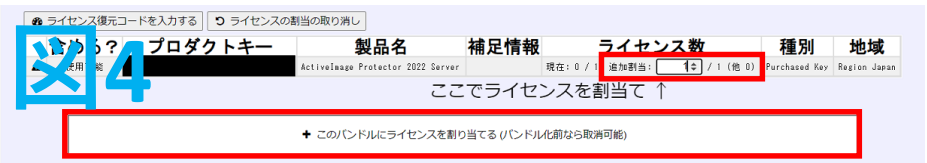
仮想マシンのエージェントレスバックアップで使用する場合には、Hyper-Vなどに ActiveImage Protectorをインストールして、HyperAgentを使用してゲストマシンのエージェントレスバックアップが可能です。この場合、Hyper-Vホスト1台と仮想マシン4台までバックアップ運用がおこなえます。（またはゲストマシン5台のバックアップ運用も可能です)



HyperAgent

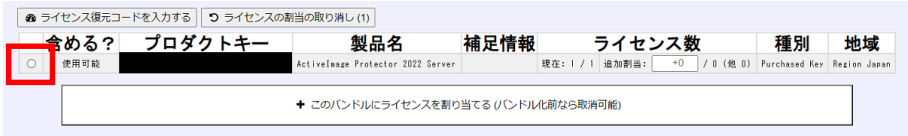
5ライセンスを5つのライセンスファイルにした場合の用途

5台の物理サーバーのバックアップをおこなう場合、前頁の図1と図2のように各マシンへActiveImage Protectorのインストール後、それぞれのマシンでURLを発行します。その後図3の赤枠内で1と設定して、5個のライセンスファイルを作成します。各サーバーで発行されるURLでは、そのサーバー専用のライセンスファイルを作成するため、必ずライセンスファイルはURLを発行したサーバーで使用してください。



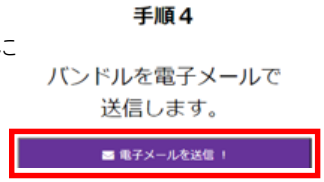
割当て数を入力後、図4の [このバンドルにライセンスを割り当てる] をクリックします。

赤枠のチェックボックスにチェックを入れます。



ブラウザの左側の [バンドル化！] ボタンがアクティブになります。問題なければ、クリックすると確認画面が表示されるため、[OK] をクリックします。
これでバンドルファイルが作成されます。

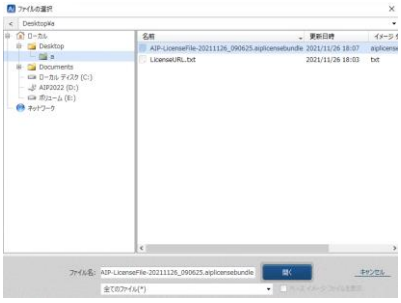
バンドル化処理が完了すると、ブラウザ左側の [電子メールを送信！] ボタンがアクティブになるため、クリックします。すると、最初の画面で設定したメールアドレスにライセンスファイルが送信されます。

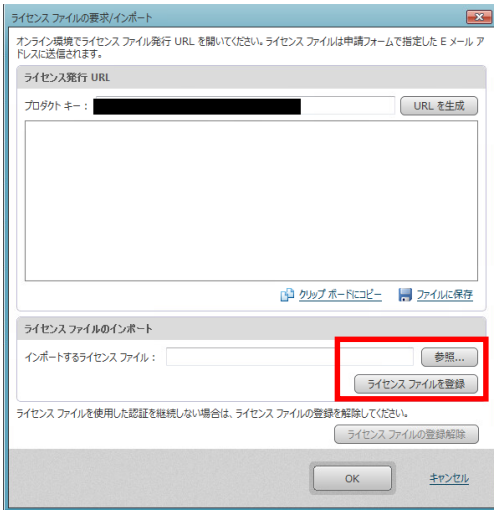


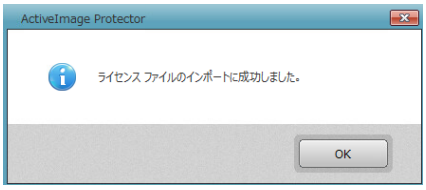
メール添付で左図のファイルが送付されるため、ActiveImage Protectorをインストールしたマシンの任意の場所にコピーしてください。

e.g.) AIP-LicenseFile-20211126_090625.aip
licensebundle

ActiveImage Protectorのコンソール [ヘルプ] – [ライセンス] – [ライセンスファイルの作成と登録] から [ライセンスファイルの要求/インポート] 画面で、作成したライセンスファイルを登録します。
[参照] から、コピーしたライセンスファイルを選択して [ライセンスファイルを登録] をクリックします。

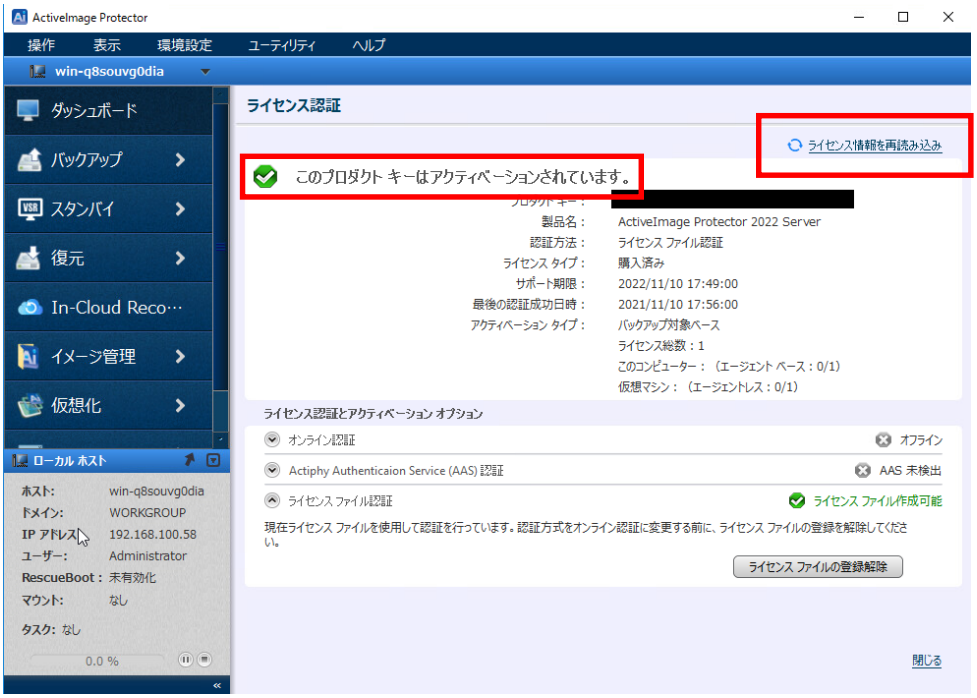






正常に登録されると左図の確認画面が表示されます。

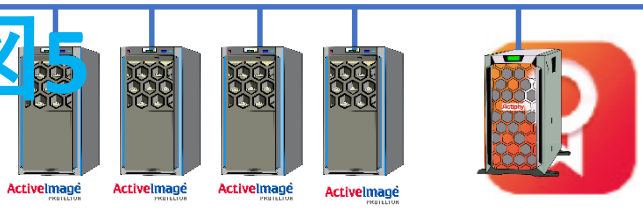
アクティベーションが完了すると、ライセンス認証画面の赤枠内に [このプロダクトキーはアクティベーションされています。] と表示されます。
もし表示されていない場合には、[ライセンス情報を再読み込み] をクリックして確認してください。



AAS(Actiphy Authentication Service)によるアクティベーション

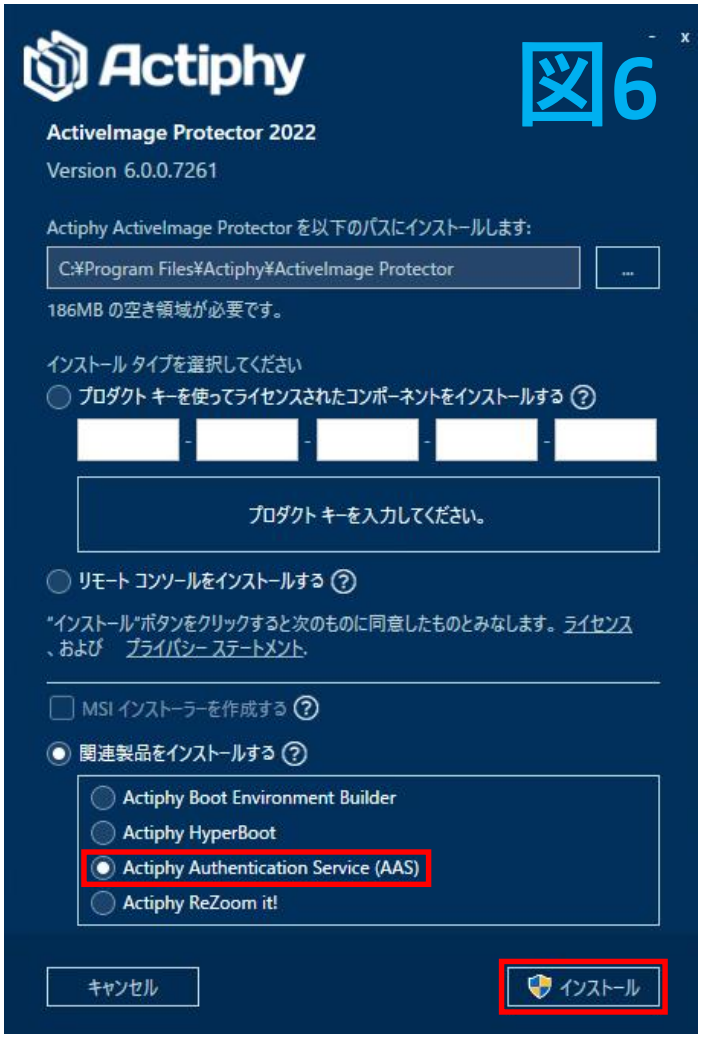
AASは、複数台のActiveImage Protectorをインストールしたマシンを、まとめて認証する場合に非常に便利です。基本構成としては図5のように、ネットワークアクセス可能な範囲にある、1台のWindowsマシンにAASをインストールし、バンドル化したプロダクトキーを登録することで、すべてのマシンのアクティベーションが完了します。AASの導入先はWindows OSに限定されています。ネットワークアクセス可能な範囲にあれば、保存先として使用しているマシンやバックアップ対象のマシンなど、別の役割のマシンでも導入は可能です。

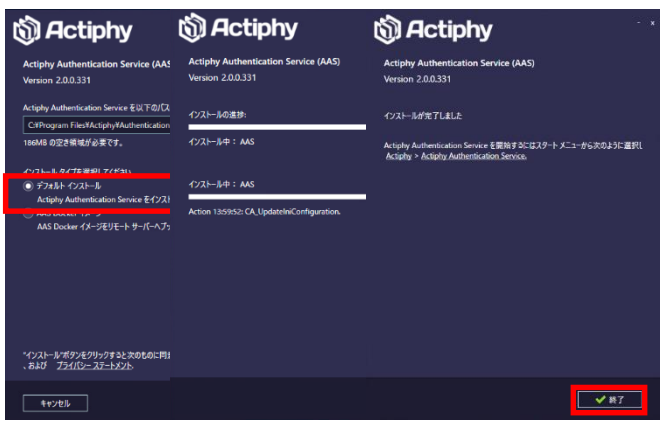
図5



AASのインストールについて、以前は別途Setup.exeのダウンロードが必要でしたが、ActiveImage Protector 2022よりActiveImage Protectorのインストーラーに含まれています。
AASのインストールには、プロダクトキーの入力は必要ありません。図6のインストーラー画面下部にある[Actiphy Authentication Service(AAS)] のラジオボタンをチェックして [インストール] をクリックしてください。
以下の画面では、必ず [デフォルトインストール] を選択したまま、インストールをおこなってください。
すると、下図のようにインストールが完了します。

図6





インストールが完了すると、デスクトップ上にアイコンが作成されるため、ダブルクリックしてAASを起動します。

図7

インターネット接続をおこなえないローカルエリアネットワーク上の使用では、デフォルトの [サーバーモード] を選択したままにします。
図7に表示されるライセンスバンドルURLをクリップボードに [コピー] します。メモ帳などにペースト後、インターネット接続可能なマシン上で、ブラウザ経由でコピーしたURLへ接続をおこないます。
このURLを使用してプロダクトキーをバンドル化した場合、そのURLを発行したAAS上でのみアクティベーションが可能となります。

URLに接続するとライセンスバンドル申請フォームのサイトに接続します。

バンドルファイルの受け取りに使用するメールアドレスを入力し、[検証！]をクリックしてください。

URL発行元のAASでアクティベーションしたいプロダクトキーを追加します。プロダクトキーを入力して [プロダクトキーを追加] をクリックします。

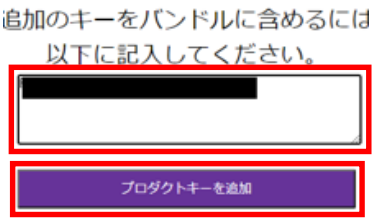
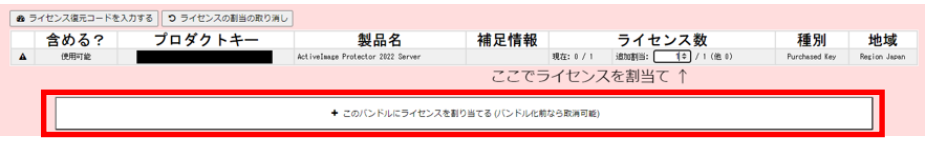


図8

図8の赤枠内に、追加したプロダクトキーのライセンス数が表示されます。このAASでアクティベーションするライセンス数を入力してバンドル化します。異なるネットワーク環境で使用しているライセンスのアクティベーションには、別途AASが必要です。その場合、当該AASで発行するURLへ、別途接続してバンドル化をおこなう必要があります。

※合計5ライセンス所有の場合、先に2ライセンスをバンドル化してAASに登録後、残り3ライセンスも同じAASに登録するには、再度そのAASの発行したURLへ接続して、合計5ライセンスをバンドル化します。新しいバンドルファイルをAASに登録することで、5ライセンスのアクティベーションが可能になります。なお、古いバンドルファイルの使用は不可となります。



割当て数を入力後、 [このバンドルにライセンスを割り当てる] をクリックします。

赤枠のチェックボックスにチェックを入れます。

ブラウザの左側の [バンドル化！] ボタンがアクティブになります。問題なければ、クリックすると確認画面が表示されるため、[OK] をクリックします。
これでバンドルファイルが作成されます。

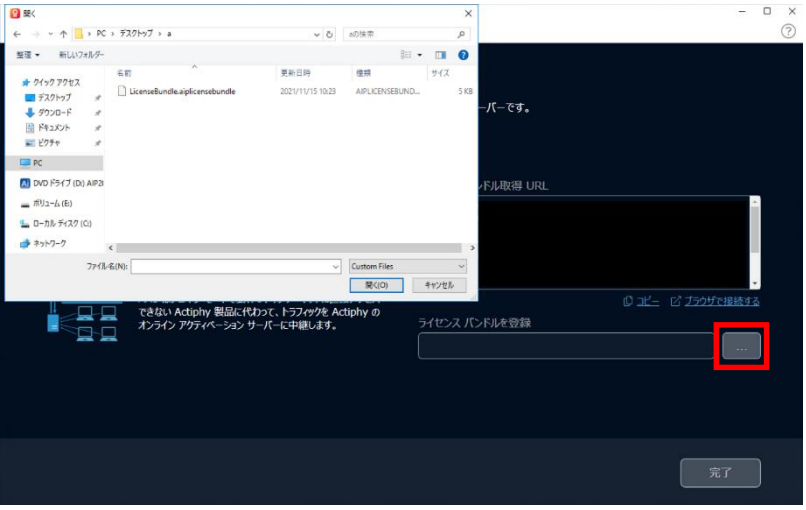
手順４

バンドルを電子メールで
送信します。

[電子メールを送信！] をクリックしてバンドルファイルをメールで送信します。

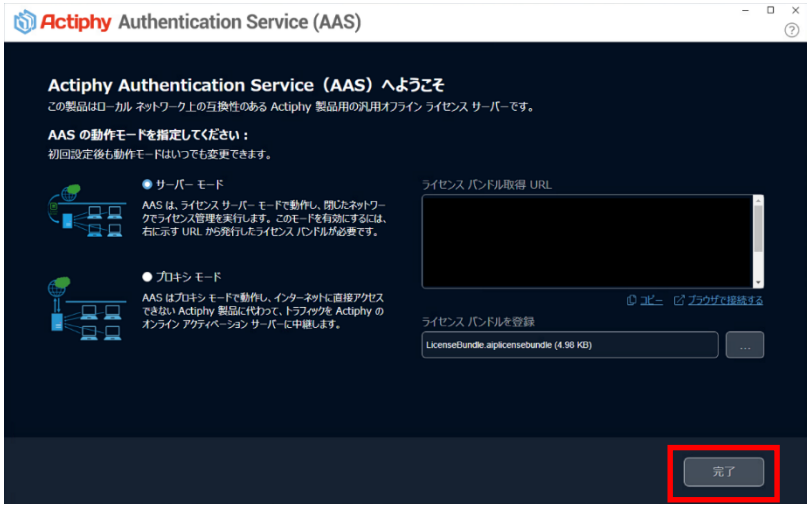
LicenseBundle.a
iplicensebundle

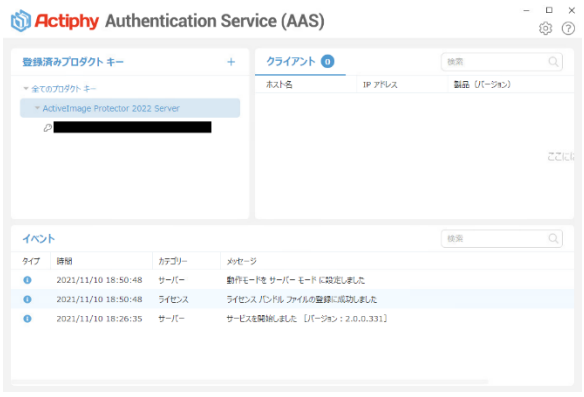
メールで受信したバンドルファイルをAASの任意の場所にコピーします。



AASのコンソール上で、バンドルファイルを登録します。

バンドルファイルの登録が完了したら [完了] をクリックします。





AASでバンドルファイルが正常に登録されると、現在登録対象のライセンス詳細などが確認可能です。

ActiveImage Protectorをインストールしたマシンのライセンス認証画面で、最初は図9のように [AAS not detected] となっています。AAS導入後しばらくしてAASを発見すると、図10のように [AAS detected] となります。多少時間がかかる場合には、コンソールのリフレッシュなどをおこなってください。
※DockerのAASは自動で見つからないため、下部に記載の方法でAASの指定をおこないます。

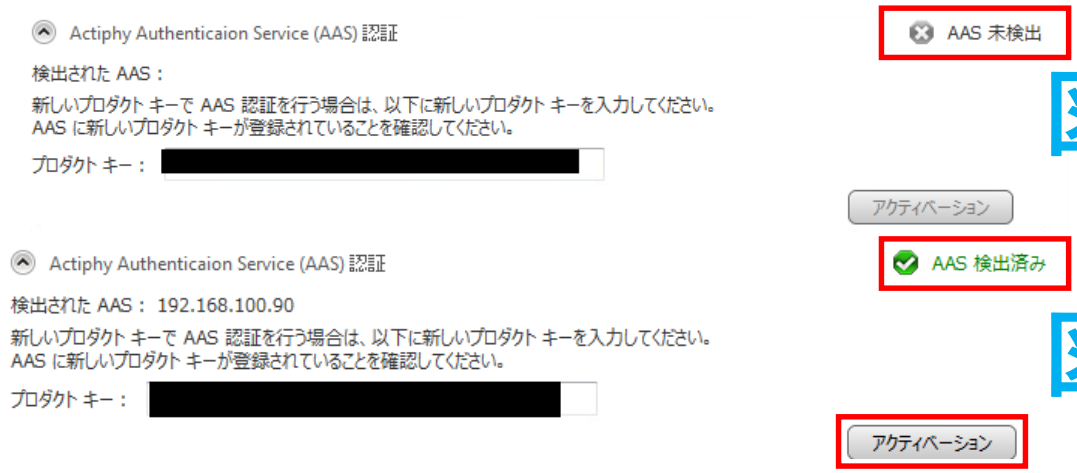


図9

図10

AASが検出されても、図10の [アクティベーション] を押すまで、[このプロダクトキーはアクティベーションされていません] と表記されたままの場合があります。その場合には [アクティベーション] をクリックしてください。正常にアクティベーションされると下図のように表示が変わります。

※AASとActiveImage Protectorインストールマシンの相互通信が可能にもかかわらず、目的のAASが未検出のままの場合の対処方法として、ActiveImage Protectorインストールマシンから、コマンドラインでAASをIP指定します。

ActiveImage Protectorをインストールしているマシンのコマンドプロンプトを起動し、以下のようなコマンドでActiveImage Protectorのインストールフォルダへ移動して、AASのIPを指定します。

cd ¥Program Files¥Actiphy¥ActiveImage Protector
aipcontrol config AASIP <IP> (AASをインストールしているマシンのIPアドレス)

参考：
ドメイン環境の場合にはDNSマネージャーの前方参照ゾーンのドメインの中にレコード追加することにより、名前解決が可能となります。この場合、AASのIPアドレスとホスト名、完全装飾ドメイン名を設定します。

プライマリDNSへのレコード追加ではホスト名は aas-autodiscovery と設定します。

セカンダリDNSで追加レコードがおこなえない場合には、プライマリDNSに Actiphy.tech をプライマリゾーンとして追加後、上記と同様にレコード追加をおこなってください。